

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号
特許第5062868号
(P5062868)

(45) 発行日 平成24年10月31日 (2012. 10. 31)

(24) 登録日 平成24年8月17日 (2012. 8. 17)

(51) Int. Cl.	F I
B 4 4 C 5/04 (2006. 01)	B 4 4 C 5/04 C
A 4 7 G 1/06 (2006. 01)	A 4 7 G 1/06 A
A 4 7 G 1/14 (2006. 01)	A 4 7 G 1/14 F

請求項の数 2 (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2005-295962 (P2005-295962)	(73) 特許権者 303011334
(22) 出願日 平成17年10月11日 (2005. 10. 11)	安 米富
(65) 公開番号 特開2006-341584 (P2006-341584A)	富山県高岡市城光寺409
(43) 公開日 平成18年12月21日 (2006. 12. 21)	(74) 代理人 100114074
審査請求日 平成20年10月7日 (2008. 10. 7)	弁理士 大谷 嘉一
(31) 優先権主張番号 特願2005-140440 (P2005-140440)	(72) 発明者 安 米富
(32) 優先日 平成17年5月12日 (2005. 5. 12)	富山県高岡市城光寺409番地
(33) 優先権主張国 日本国 (JP)	審査官 青木 正博
前置審査	
	最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 押花装飾額

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

額枠に嵌装し表側面となる透明な透明パネルと、当該透明パネルの裏面側に配置する押し花と、表面側のみ梨地仕上げした梨地透明フィルムと、揭示物を配置する揭示物配置部とを備え、

透明パネルの裏面に、押し花を挟んで梨地透明フィルムの表面を密着させることで当該密着部に透明度があり、且つ押し花の周囲に当該押し花の出っ張りにより生じる隆起部に梨地面が現れることで反射模様が生じるのを防止してあり、梨地透明フィルムの裏側に揭示物配置部を形成してあることを特徴とする押花装飾額。

【請求項 2】

梨地透明フィルムの表側に、開口部を有する中枠を設け、中枠の開口部に梨地透明フィルムの裏側から揭示物が臨むようにしたことを特徴とする請求項 1 記載の押花装飾額。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、写真等の揭示物を押し花で装飾した押花装飾額に関する。

【背景技術】

【0002】

葬儀や法要においては、遺影を入れた額が用いられるとともに、周囲を花で飾る場合が多い。

最近では、遺影の周囲を押し花等で飾るニーズが増している。

また、スナップ写真を額に入れて押し花で飾るニーズもある。

この場合に、厚みのある押し花又は押し花に葉を部分的に重ねて立体的に飾ったり、花や葉の色合いを長期にわたって維持する必要がある。

【0003】

特開2004-98497号公報には、PET製の2枚透明板の間に押し花を挟む技術を開示し、2枚PET板で押し花を挟むと押し花がつぶれて立体感が出ないので、表側のPET板に押し花に合わせてエンボス加工をしている。

これでは押し花の配置に制限できるだけでなく、PETの表面の凹凸による反射光にて押し花の色合いが充分に発揮されない問題がある。

10

また、PETには透湿性がないが隙間から湿気が浸入する恐れがあり、押し花の乾燥状態を長期に維持するのに必要とされる乾燥剤を2枚のPETの間に入れるのは難しい。

【0004】

【特許文献1】特開2004-98497号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

本発明は、上記技術的課題に鑑みて押し花の色合いを充分に発揮できるとともに、写真等の掲示物のセットが容易な押花装飾額の提供を目的とする。

【課題を解決するための手段】

20

【0006】

本発明に係る押花装飾額は、額枠に嵌装し表側面となる透明な透明パネルと、当該透明パネルの裏面側に配置する押し花と、表面側のみ梨地仕上げした梨地透明フィルムと、掲示物を配置する掲示物配置部とを備え、透明パネルの裏面に、押し花を挟んで梨地透明フィルムの表面を密着させることで当該密着部に透明度があり、且つ押し花の周囲に当該押し花の出っ張りにより生じる隆起部に梨地面が現れることで反射模様が生じるのを防止してあり、梨地透明フィルムの裏側に掲示物配置部を形成してあることを特徴とする。

【0007】

ここで透明パネルとは、額枠に嵌装し表側面となるパネルである。

なお、本発明においては額の正面を表側とする。

30

透明パネルは、ガラス板や透明な樹脂板他等の略矩形の板である。

梨地透明フィルムとは、フィルム表面に微少の凹凸を形成することで光が散乱し、すりガラス調に仕上げた樹脂フィルムをいい、梨地透明フィルムを一枚単独で透かして見ると白っぽくもっているが、パネル材等に密着すると透明に見える性質を有する。

従って、透明パネルの裏面に押し花を挟むように梨地透明フィルムを密着させると、押し花の出っ張りを包むように透明パネル側に貼り付く。

この際に、梨地透明フィルムは表面光沢が無いので、押し花の周囲に押し花の隆起に沿って押し花がぼけるような反射光が生じることが無くなる。

換言すると、例えば、ポリエチレンフィルムのように表面が滑らかなフィルムで物品を包むと、フィルムの凹凸面に光の反射光（反射模様）が現れるが、梨地透明フィルムでは光が散乱して特定の反射光が生じないようにすることをいう。

40

【0008】

透明パネルの裏面に押し花を挟むように梨地透明フィルムを配置し、透明パネルと梨地透明フィルムの間を吸引して減圧すると押し花を包み込むように密着する。

この場合に、減圧等により梨地透明フィルムが透明パネルに密着すると同時に、押し花を透明パネル側に均一に押し付けるので押し花が表から綺麗に映る。

また、押し花がある程度うすい場合には、透明パネルと梨地透明フィルムの上に押し花を挟んでラミネート装置に通してもよい。

この場合にも透明パネルがガラス板や厚さのある透明樹脂にすることで、梨地透明フィルムが押し花の隆起に追随するので額にした状態で表面側は平滑に仕上がる。

50

【0009】

梨地透明フィルムの裏面側に写真や人物画、動物画等の掲示物を配置し、掲示物の裏側からアルミ箔や成型樹脂ケース等の防湿部材で少なくとも押し花部分を覆う。

これにより、押し花が吸湿するのを防ぐ。

【0010】

額枠の開口部大きさよりも写真等の掲示物が小さい場合には、梨地透明フィルムの表側に開口部を有する中枠（台紙）を配置し、中枠の表側に押し花を配置し、梨地透明フィルムと透明パネルを密着し、掲示物を中枠の開口部に臨ませるとよい。

【0011】

梨地透明フィルムは、長期的にみると水分を透過するので防湿部材で裏側を覆うだけでなく、梨地透明フィルムと防湿部材との間に乾燥剤を配設するとよい。

また、押し花の初期乾燥を目的とする場合には、中枠の裏側に乾燥剤を配設してもよい。

【0012】

梨地透明フィルムの代りに水分を透過しない、例えば、粘土を主成分とした水分非浸透性フィルムを用いると、この水分非浸透性フィルムの裏側に防湿部材が不要になり構造が簡単になる。

この場合には、透明パネルと水分非浸透性フィルムの間に押し花等を挟み込むことになる。

水分非浸透性フィルムを透明パネルに密着する方法には、減圧やラミネート加工等を用いることができる。

【発明の効果】

【0013】

本発明においては、透明パネルと梨地透明フィルムとで押し花を挟むようにしたので、梨地透明フィルムが押し花の隆起部を包み込むように透明パネルに密着するので、表側からは押し花の周囲に反射光が生じることがなく、押し花が額の正面に鮮明に現れる。

【0014】

梨地透明フィルムと防湿部材の間に乾燥剤を配設すると、長期的にみて梨地透明フィルムに透水性があっても押し花の吸湿を防止し、長期に押し花の色合いを維持できる。

また、梨地透明フィルムの代りに水分非浸透性フィルムを用いると防湿部材が不要になる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0015】

図1に本発明に係る押花装飾額の基本的構成の例を示す。

木製、樹脂製、金属製等の額枠1に透明パネル2を嵌装する。

透明パネル2は、透明である程度剛性があればガラス板、樹脂板等、材質を問わない。

梨地透明フィルム5の表面に、直接、押し花3を配置してもよいが、中枠（台紙）4を梨地透明フィルム5の表側に配設し、押し花3で飾り付ける。

中枠4の中央部には開口部4aを形成し、この開口部4aに写真6が臨むように梨地透明フィルム5の裏側に写真6を配置する。

なお、写真6は遺影でもスナップ写真でもよく、掲示物であれば画でもよい。

写真6の裏側には、板状又は厚みのうすい乾燥剤7を配置し、その裏側から防湿部材8で押し花3の配置部を包み込むようにして透明パネル2の外周側縁部と接着する。

防湿部材8は、アルミ箔でも樹脂成型体でもよい。

このように配置した押花装飾額の断面図を図2（イ）に示す。

透明パネル2に押し花3を挟むように梨地透明フィルム5を密着するには、隙間から吸引減圧すればよく、その状態を模式的に図3に示す。

梨地透明フィルム5が押し花3の隆起を包み込むように変形するが、梨地になっているので隆起部aに反射光（反射模様）が生じることなく、押し花3の色合いがそのまま押花装飾額正面に現れる。

10

20

30

40

50

図 1 において、梨地透明フィルム 5 の代りに水分を透過しない水分非浸透性フィルムを用いると、乾燥剤 7 及び防湿部材 8 が不要になり構造が簡単になる。

【0016】

本発明において梨地透明フィルムを用いたのは、押し花の周囲の反射光を消すためである。

従って、図 1 において例えば、透明パネル 2 の裏側に梨地透明フィルムを貼り付け、押し花をパネル側に押える裏側のフィルムは P E T の透明フィルムを用いてもよい。

【0017】

また、図 2 (イ) に示すように梨地透明フィルム 5 と防湿部材 8 との間に写真 (掲示物) 配設部を形成してあり、防湿部材 8 の開口部 8 a から写真 6 を挿入する。

10

なお、防湿部材 8 がアルミ箔の場合には、開口部 8 a を写真 6 挿入時に切りさき形成し、写真 6 挿入後にアルミテープ等でシールしてもよく、防湿部材 8 が樹脂成型体であれば成型時に開口部 8 a を形成し、アルミテープでシールしてもよい。

また、先に述べたように梨地透明フィルムの代りに水分非浸透性フィルムを用いるとこの防湿材は不要になる。

【0018】

図 2 (ロ) に示すように、梨地透明フィルム 5 側に、予め板状の乾燥剤 7 の配置部 5 a や中枠 4 の裏側に乾燥剤 7 a の配置部 5 b を形成しておいてもよい。

透明パネル、梨地透明フィルム、防湿部材等の外周部側は相互に接着剤 9 等で接着する。

20

【0019】

図 4 (イ) に示すように、梨地透明フィルム 5 に中枠 4 相当部分を印刷 5 c して形成してもよく、図 4 (ロ) に示すように、中枠 4 の開口部 4 a を塞ぐように梨地透明フィルム 5 を貼り付けてもよい。

【0020】

図 5 に示すように、梨地透明フィルム 5 を袋状に形成し、押し花 3、中枠 4 を配置し、袋状の一部を折り返して板状の乾燥剤 7 の配置部 5 a 等を一体的に形成してセット化すると、額枠 1 及び透明パネル 2 と組み立て、裏側を防湿部材 8 で覆うだけで押花装飾額が完成する。

なお、図 5 においても梨地透明フィルム 5 の代りに水分非浸透性フィルムを用いると裏側の防湿部材 8 が不要になる。

30

このように、セット化するとセレモニーセンター等で写真 6 を入れるだけでよく、ニーズへの対応が早くできる。

また、必要に応じて裏板 (表示省略) を取り付けてもよい。

この場合には、袋状の裏側の梨地透明フィルム 5 と透明パネル 2 とで押し花 3 を挟み込むように梨地透明フィルム 5 と透明パネル 2 の間を減圧することになる。

【0021】

防湿部材 8 の縁部と透明パネル 2 との接着剤 10 による接着例を図 6 に示す。

中枠 4 を紙等で形成すると接着剤 10 がしみ込み、表面側に出るので見映えが悪くなることがある。

40

その場合に、中枠 4 に接着剤 10 が付かないようにフィルム 11 を当ててもよく、額枠 1 に既設のガラス板等の裏側に、図 6 (ロ) に示すようにセットする場合には、接着部を隠す隠蔽部材 12 を配設すると額枠 1 の内側のかかり幅 L1 が接着剤の幅 L3 より小さくても隠蔽部材 12 の幅 L2 で隠蔽できるので、各種一般額も使用可能になる。

さらには、写真等を額に入れない場合には、一般的な押し花額としても使用できる。

【図面の簡単な説明】

【0022】

【図 1】 本発明に係る押花装飾額の構成例を示す。

【図 2】 押花装飾額の断面図を示す。

【図 3】 透明パネルと梨地透明フィルムの密着部の拡大図を示す。

50

【図 4】 梨地透明フィルムの展開例を示す。

【図 5】 梨地透明フィルムを袋状に形成した例を示す。

【図 6】 透明パネルと防湿部材との接着部を示す。

【符号の説明】

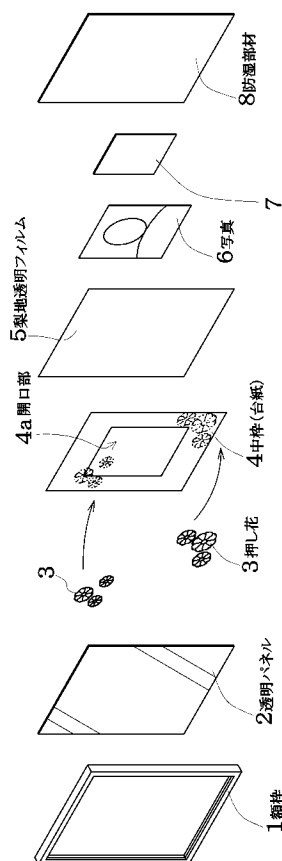
【 0 0 2 3 】

- 1 額枠
- 2 透明パネル
- 3 押し花
- 4 中枠（台紙）
- 4 a 開口部
- 5 梨地透明フィルム
- 5 a、5 b 配置部
- 6 写真
- 7 板状の乾燥剤
- 7 a 乾燥剤
- 8 防湿部材
- 8 a 開口部
- 9、10 接着剤
- 11 フィルム
- 12 隠蔽部材

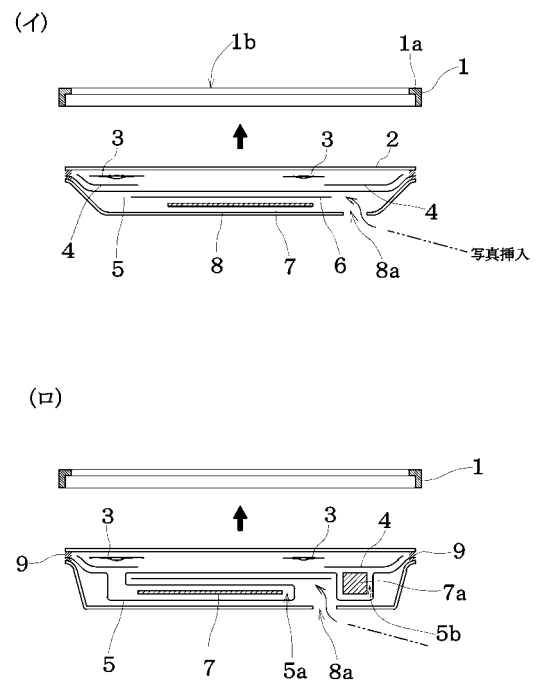
10

20

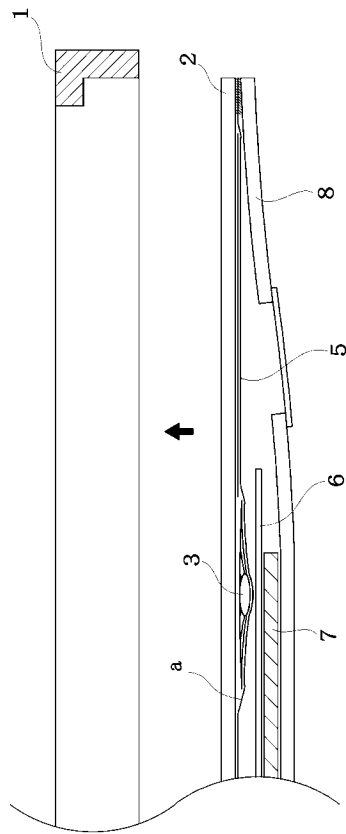
【図 1】



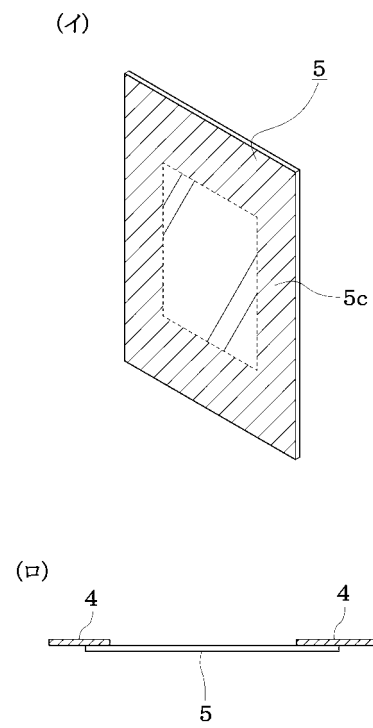
【図 2】



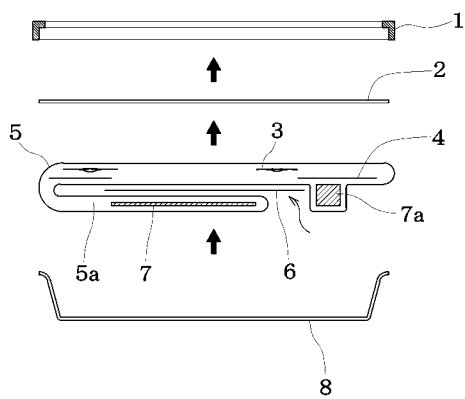
【図 3】



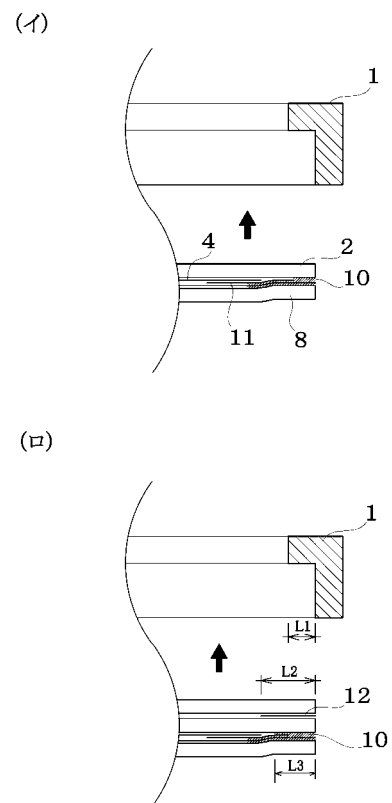
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開2004-098497 (JP, A)
特開2003-300400 (JP, A)
実開昭63-074679 (JP, U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B44C 5/04
A47G 1/06
A47G 1/14